

## ◇話の聞きもちが多い児童

【Q】 小学校3年生の男子の保護者です。授業中、先生の話の聞きもちしたり、友達との約束を忘れてすることが時々あります。家庭でも同じようなことがあり、お手伝いを頼んでも中途半端だったり、おつかいの品物を買って忘れてすることも多いように思います。その都度注意していますが、なかなか改善されません。

担任の先生に相談したところ、話の内容をメモするなどの工夫をしてくださいました。家庭では、どのような関わり方をしていけばよいか教えてください。

【A】 3年生になると、教科や授業時数が増え、友達との関わりも急速に増えてきます。たくさんの情報を処理出来ずに、混乱してしまう場合があります。また、聞いた内容を覚えておくことが苦手なタイプのお子さんもあります。まずはお子さんにとって「わかる・できる」環境をつくりましょう。具体的には次のような工夫が有効です。

### ①情報を残す工夫をする

話を聞き、覚えておくことが苦手でも、担任の先生のように文字として残す工夫をすることで、お子さんが忘れて困ることは少なくなります。買い物を頼む時など、メモをとらせ、確認しながら買うようにしていくと買い忘れを防ぐだけでなく、メモをとる習慣づくりにもつながります。

### ②一度に一つずつ伝える

覚えておくことが苦手なお子さんは一度にたくさんのことを言われると、忘れてしまい、どれも中途半端になってしまいます。

お手伝いを頼む時も、一度にひとつずつ伝え、できたらほめ、次の用事を頼む方が結果的に早く完全にできるものです。

### ③具体的に、わかりやすく伝える

3年生は抽象的に考える力が急速に育ってくる時期ですが、個人差も多い年齢です。聞いて行動することが苦手なお子さんには、具体的に伝えたり、実物を見せてわからせたり、実際にやって見せたりすることが効果的です。

成長の「早い・遅い」や物事の「得意・苦手」は誰にもあるものです。特に生活や学習に、困難をきたすようなことがございましたら川越市立教育センター分室（リベラー）ご相談ください。